

総 評

大問の順番に変更があったが、物語文、論説文、言葉に関する問題、語句知識（漢字）、古典が出題される構成は例年通り。古典では漢文が出題されたが、この傾向は 2 年前から続いているので、例年通り。平均点は 58 点前後と予想される。

傾向がやや異なったのは物語文で、例年は中学生や高校生など学生が主人公で、部活動や家庭での出来事が題材になっていたが、今回の主人公は大人であり、「嵩高い」「旗幟鮮明」など難解な言葉（注釈あり）が用いられていることもあって、読み取りにくいと感じた生徒が多かった。多くの問題に触れ、それを通して、どの問題でも適用できる解き方を身につける意識で授業に向かうことで、国語で安定して得点する力を養うことができる。

難易度・出題単元

【第一問】語句知識 《普》

〈漢字 16 点、行書の特徴 2 点、品詞の識別 2 点、敬語表現 2 点、三字熟語 2 点〉 計 24 点

問一③「寸暇」の読みは中 3 後期レギュラー授業、④「静寂」の読み、問四「言う」の尊敬語は、冬講で実施した語句暗記大会問題からの中。行書で書いた字の総画数や点画の省略、部首についての問題は頻出であり、問三の品詞の識別とともに各種講習会や前期選抜対策ゼミでも取り上げてきた。問題の配点は低いですが、数をこなせば確実に得点できるようになる分野なので、後回しにせず取り組むことが肝要。

【第二問】言葉に関する問題 《普》

〈抜き出し 2 点、記号選択 8 点、記述 8 点（昨年は抜き出しがなく、敬語表現 2 点だったが、それ以外は昨年同様）〉 計 18 点

例年のインタビューや話し合いの問題と比べると、少し考えさせる問題になっている。クラスで行う交流会の活動内容を発表するための話し合いが題材で、【構成表】【発表メモ】【資料】【発表】を問題によってそれぞれ読み取って答える必要がある。複数の資料や問題文を適切に読み取り、要約や会話の流れから推察することが求められる。

【第三問】物語文 《やや難》

〈抜き出し 3 点（昨年+1 点）、記号選択 12 点（昨年-1 点）、記述 9 点〉 計 24 点

例年とは異なる傾向の題材で読み取りにくさがあったため、本来は得点したい内容理解の記号選択の正答率も低下することが予想される。問一の表現技法を問われ隠喩を選ぶ問題の正答率は低くなると考えられるが、レギュラー授業等で何度も取り上げているので、塾生は難なく解けたはず。問三（一）慣用句「息を呑む」の意味は、語句暗記大会問題からの中。正確な読解には、表現技法や慣用句の知識が不可欠である。問五の記述は「ある時は寒風に目を細め、ある時は汗や涙のにじむ目で見詰めてきた」を「自然の中で見詰めてきた」など、短く言い換えて記述する。具体と抽象を見分け、具体例をまとめて言い換えられる力が必要となるため、レギュラー授業等の記述解説で多く取り上げている。

【第四問】論説文 《普》

〈抜き出し 6 点、記号選択 9 点、記述 9 点（昨年同様）〉 計 24 点

問四は本文の「そうすること」の内容を問う指示語の基本的な問題。問五の五十字記述はこれまでは異なる二箇所から該当部分を抜き出してまとめる形式が多かったが、今回は傍線部直前をまとめるだけだったため、逆に混乱した生徒もいた。記述以外は易しいので、接続語、指示語の問題など、確実に得点したい。

【第五問】漢文 《やや難》

〈抜き出し 2 点、選択肢 4 点（昨年+2 点）、記述 4 点（昨年は返り点の問題が出題されていた。それ以外は昨年同様）〉 計 10 点

問一は「反」という漢字の意味、問二（二）は「衆」という漢字の意味をそれぞれの確に理解できていたかが問われた。熟語を知ったときにそれぞれの漢字の意味を考えて理解する姿勢が必要であり、漢文読解の際もこれを心がける必要がある。問三の記述は「霄壤」の注釈をふまえ、両者の「差が大きい」ということを書けているかが正否を分ける。